

感染症内科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム。

1. 感染症の診断・治療の基本を理解し実践できる。
2. 医療関連感染を防止でき、新興・再興感染症への基本的対応ができる
3. Infection Control Team (ICT)、Antimicrobial Stewardship Team (AST)を通じてチーム医療の一員として活動できる。

研修目的

近年、新型コロナウイルス感染症などの新興・再興感染症の登場により、将来的な専門領域を問わず、感染症診療および感染症対策は医師として不可欠な習得事項になっている。当科の研修では感染症診療・対策の基本的考え方を習得し、一般感染症のみでなく、新興・再興感染症に対しても適切な初期対応が可能になることを目的とする。

研修目標

◇ 一般目標 (GIOs)

新興・再興感染症を含めた種々の感染症に対して的確なマネジメントが可能になること、さらには、医療関連感染防止の観点から ICT などのチーム医療を通じて、地域を含めた感染症対策対を行える基本的考え方を習得することを目標とする。

◇ 行動目標 (SBOs)

1. 医療関連感染を防止できる知識・技量を習得する。
2. 新興・再興感染症への初期対応を習得する。
3. 病歴・身体所見をとり、カルテに記載できる。
4. 身体所見と検査データから問題点を抽出できる。
5. 診療と治療のための計画を立案できる。
6. グラム染色や血液培養などの基本的診断手技と評価法を習得する。
7. 抗菌薬を適切に選択し、病状や薬物に応じた投与量を決定する基本的考え方を習得する。
8. 上級医の指導のもと、患者の病状と治療に関する説明を適切に行うことができる。
9. チーム医療の一員として、病院スタッフと適切に連携することができる。

- ◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技
- ・ グラム染色、細菌培養検査、薬剤感受性検査
 - ・ 新興・再興感染症(新型コロナウイルス感染症など、診療および対策)
 - ・ 市中感染症(肺炎、下痢症など)
 - ・ 病院内関連感染症(菌血症・敗血症、薬剤耐性菌感染症、日和見感染症など)
 - ・ 不明熱
 - ・ アウトブレイクへの対応

研修方略

該当 SBOs	場所	指導者	時間	学習時期
1, 2	病棟、外来、 感染制御部	感染症内科スタッフ 感染制御部スタッフ ICT メンバー	随時	1~3 ヶ月
3, 4, 5	病棟、外来	感染症内科スタッフ	随時	1~3 ヶ月
6	細菌検査室	細菌検査室スタッフ	随時	1~3 ヶ月
7	病棟、外来、 感染制御部	感染症内科スタッフ 感染制御部スタッフ AST メンバー	随時	1~3 ヶ月
8	病棟、外来	感染症内科スタッフ	随時	1~3 ヶ月
9	病棟、外来	感染症内科スタッフ 感染制御部スタッフ ICT メンバー AST メンバー	随時	1~3 ヶ月

研修評価

研修期間中に以下の項目を中心に口頭試問や観察により評価

- ・入院患者の病歴・身体所見を適切に行い、適切な診断を行える
- ・適切な検体採取、培養検査を行うことができる（喀痰培養、血液培養など）
- ・培養結果を正しく解釈し、正しく薬剤感受性結果を正しく解釈できる。
- ・適切な抗菌薬選択ができ、適切な治療期間を設定できる
- ・個人防護具を適切に着脱でき、適切に使用可能である
- ・AST、ICT 活動に参加し、チーム医療としての自己の役割を体感する
- ・アウトブレイクへの初期対応を行うことができる。
- ・医療関連感染を防止できる

週間予定表

	午前・午後
月	病棟・外来研修、ICT、AST 活動など 各種ミーティング
火	病棟・外来研修、ICT、AST 活動など
水	病棟・外来研修、ICT、AST 活動など
木	病棟・外来研修、ICT、AST 活動など 各種ミーティング
金	病棟・外来研修、ICT、AST 活動など

指導責任者および指導医

指導責任者

- ・遠藤史郎：感染症専門医・指導医、抗菌化学療法指導医、
日本臨床微生物学会認定医、ICD、総合内科専門医、臨床研修指導医

指導医

- ・賀来満夫：感染症専門医・指導医、臨床検査専門医、ICD、
WHO 専門家（感染症、感染制御アドバイザー）、認定内科医
- ・鈴木 潤：感染症専門医、ICD、総合内科専門医、臨床研修指導医
- ・島田大嗣：認定内科医
- ・今井 悠：総合内科専門医、ICD

学生（4~6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否
参加可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

指導医のもとで、症例のまとめなどを学会あるいは論文等で報告する。

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：1～3ヶ月）

2名/1クール